



おいちよう

令和2年 7月13日

発行 鶴瀬小学校No.5

049-251-0144・0149

文責：校長 松波徳美

学校教育目標 **かしこく《学ぶ》 やさしく《和す》 たくましく《鍛える》**

鶴っ子のめあて

にこにこ

きびきび

ぴかぴか



「 コロナ禍の中で学ぶこと2 」

— 「自らの学びをマネジメントする自律性の伸長」 —

休校になった3ヶ月間、子どもたちは、家にいる時間の中で、何を考えていたのでしょうか。一人一人、それぞれ考えることがたくさんあったと思います。6年生にどんなことを考えていたかを聞いてみました。

休校中に感じていたこと

- ・早く学校に行って友達に会いたい。
- ・みんなげんきかな。
- ・普段できないことができるから楽しい。
- ・やることなくてひまだなあ。
- ・宿題が多くて大変。宿題難しいな。
- ・早くコロナが治まってほしい。
- ・校庭で遊びたいな。
- ・時間の使い方を考え直した。
- ・ゲームをいっぱいしていた。
- ・ゲームにもあきた。

学校が始まって感じること

- ・学校に行くって幸せだ。
- ・みんなと遊べて楽しい。
- ・久しぶりに会って、みんな元気で良かった。
- ・楽しく授業が受けられている。
- ・時間の使い方を直すと効率的にでき、自由時間が増やせるようになった。
- ・ゲームの時間がすごく減った。
- ・学校に行くのが当たり前だと思っていたけど、休んでいたとき、学校に行っていた頃がどれだけ良かったのか思い知らされた。

「2020年新型コロナウイルス感染症パンデミックへの教育における対策をガイドするフレームワーク」のタイトルで、先ごろ第4版が仮訳されました。その中で注目されるのは、「この変化から教育に生じた予想外の肯定的な成果」として、「子どもたちが自らの学びをマネジメントする自律性の伸長」だったそうです。「やや成果がある」と「かなり成果がある」の総計が約84%に上るといいます。

子どもたちの回答の中で、注目したいのは、「時間の使い方を考え直し、効率化して自由時間を増やす。」というものです。まさに、コロナがもたらした学力、「自らの学びをマネジメントする自律性の伸長」なのではないかと思えます。主体的に時間の使い方を考え、時間を生み出す力こそ、真の学力と言えるのかもしれませんが。その力を学校生活の中で生かしていくために教育活動や指導をこれからも工夫していきます。